



校長通信

尾花沢を背負って立つ学校～自分たちで創り上げるシン尾花沢中～

# 輝け！シン尾花沢中

けだかく晴れた 月の峰 雲間にそそる 鳥海の

第118号  
令和7年  
11月1日

## 尾花沢を盛り上げ隊！②～第2回絆リレーマラソン交流大会～

前号に引き続き、第2回絆リレーマラソン交流会に参加した尾中生の声を紹介します。

有路 太陽さん（3年）：「仲間と走りたい」「リレーマラソンを経験したい」という気持ちが大きかったです。当日は、最高の仲間と共に最後まで走り切ることができました。「仲間にタスキをつなぐために走る」という想いが強く、つらくても「走り切らなければなりませんでした。最終的には、思い出に残る気持ちのよい走りができました。仲間だけではなく、周りの人々がランナーを応援してくれてとても力になったし、自分も参加者の一員として地域を盛り上げることができたと思いました。

佐藤 温人さん（3年）：僕は友達に誘われて参加しました。そのときは面白半分でしたが、参加者の中にまさかの校長先生もいて「地域を元気にしたい」という本当の意味が分かり「本気で頑張らないとだめだな」と思い、100分間全力で走り続けました。この経験を生かして行事などでも、今まで以上に盛り上げていこうと思います。



五十嵐 真那さん（3年）：地域の人や子供たちに自分の走りを見てもらい、元気を与えるという想いで参加しました。実際に参加してみて、みんなが笑顔で絆を深めることができてよかったです。自分も、人々のあたたかさに触れ、元気をもらいました。また、普段、話をする事のない人たちとも交流できてよかったです。これからも、僕は夢に向かってあきらめずに突き進み、人に感動を与えることができるような選手になりたいです。



渡辺 叶愛さん（3年）：今年は、尾花沢中の人たちとチームを組み、地域活動に積極的に参加できて楽しかったし、地域の人々と交流することができてうれしかったです。また、尾中生みんなで最後まで笑顔で走り切り、地域を明るく元気にすることができてよかったです。今後もこういう機会があれば参加したいと思います。

石山 悠斗さん（3年）：2つ感じたことがあります。1つ目は、仲間との絆です。仲間と共にタスキをつなぎ続け、応援し合ったり励まし合ったりすることで、100分間走り続けることができました。2つ目は、地域の人たちのつながりでした。途中で「頑張って」「ファイト」と応援してもらいました。そのおかげで寒い中でも完走できたのだ、と思いました。

星川 碧海さん（3年）：友達に誘われて楽しそうだと思い、参加しました。私は400mを走ってけっこう疲れました。でも、メンバーが応援してくれ、うれしかったです。より一層絆を深めることができました。最高の思い出の1ページをつくることができてよかったです。

尾中生の真剣で力強い走りは、小学生の模範であるとともに、地域の人々に活力を与えるものでした。出場した皆さん、お疲れさまでした。

【文責：校長 工藤雅史】